

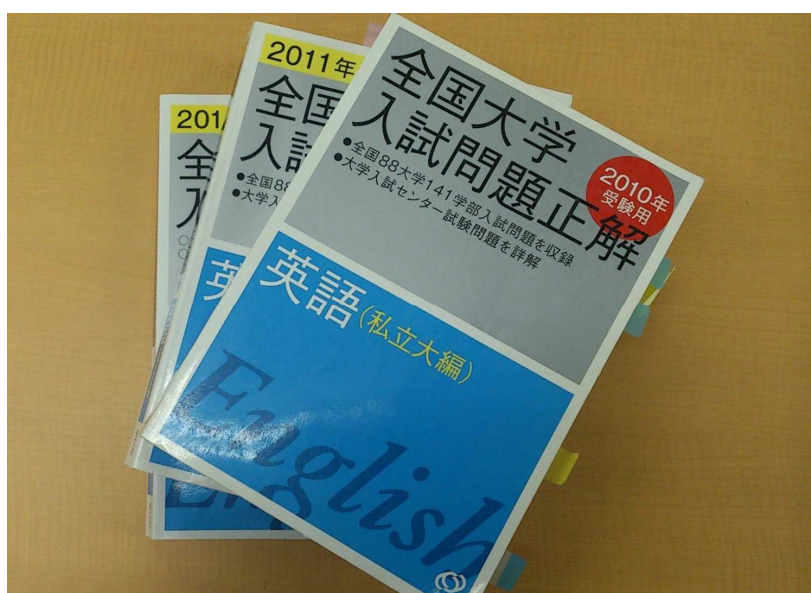
## 大学入試問題における英語の正誤問題の分析

### 1. はじめに

私たちは、私立大学入試の正誤問題を取り上げ、対策を立ててみようと考えました。正誤問題は私立大学の入試問題で占める割合は少ないので、どのような対策が必要なのかと思ひ、問題を集めて分析してみることにしました。

### 2. 研究方法

まず、2010年・2011年・2012年の『全国大学入試問題正解』を使って正誤問題を探し出してパソコンに打ち出し、高津高校の進路指導室にある赤本で問題の解答を調べました。この時、赤本の見つからなかった大学の正誤問題は省きました。その後、分担して問題の解説を作り、問題を種類別に分類しました。



▲ 使用した参考書

### 3. 結果・考察

正誤問題には語法や時制、意味を問う問題などたくさんの種類の問題があり、知識や読解力が必要であることが分かりました。だから正誤問題を解く時、どこが間違えているのかだけでなく、どうして間違えているのか・何が正しいのかについても考えることで、正誤問題の問題文のどこに着目すべきかが見えてくるようになるし、語彙力や読解力もついてくると考えられます。また、問題を分類する際にひとつの問題でいろいろなことが問われ、ひとつの分野に分類することが難しかったです。たとえば、この問題→Q. I believe that biology teachers should not give in to pressure to be included×(to include ○) nonscientific ideas that dispute Darwin's Theory of Evolution in their courses. His theory, which states that life developed through natural selection, is founded on strict scientific observation and evidence.

この問題では、文脈から pressure が含まれる (be included) のか含む (include) のかがまず問題です。この問題では、pressure が含む (include) のので to include にするのが正しいです。また to be included の後ろに nonscientific ideas という名詞があるのですが、include は SV0 の第3文型をとるので to be included の後ろに nonscientific ideas (名詞) を置くことはできないので to include にするのが正しいです。ですからこの一問でも「受身に関する問題」か「語法に関する問題」のどちらに分類するか悩みました。そのような時は、赤本の解説を参考にしました。

#### 4. 成果

慶応義塾大学・上智大学・中央大学・日本女子大学・立命館大学・早稲田大学の入試問題から161問の正誤問題を集めましたが、その中から、50問を使って参考書を作りました。使用した入試問題の大学は慶応義塾大学・立命館大学・早稲田大学です。参考書には問題に加え、解答・解説、和訳を自分たちで考え、調べ、まとめました。

#### 5. まとめ

多くの英文に触れることで、新しい単語や表現を覚えることができ、自分たちの英語力を向上させることができました。また正誤問題を解くには、語彙力だけでなく、語法についての知識や読解力が必要であることも分かり、これから一年後の大学入試に向けてより一層知識を身につけ、読解力・表現力をつけていこうと思いました。